

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をふまえ、職員が具体的な取り組みを話し合い、短期目標を掲げている。毎月のスタッフ会議で、実践状況の検討を行っている。	理念を踏まえて具体的な努力目標を掲げ、達成に向けた取り組みをしている。「できたよね」「前に進んだよね」という感覚を掴めるよう、短期間で達成可能な目標とし、積み重ねることを大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会費を納入し、回覧物が配られて来たり、町内の花火大会に花火を上げたりしている。近所の方々から、時々野菜等のおすそ分けを頂いている。	町内会に入り、身近な付き合いをしている。町内の回覧物はリビングに掲示して入居者に見てもらっている。施設全体の行事(納涼会・秋楽祭)は、ポスターや有線放送で地域住民に伝達してもらい、大勢の参加を募っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人に介護予防拠点を開放している。体力づくり支援センターの高齢者に対する運動などに使用してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回のペースで開催し事業報告をし、率直な意見や指導を受けている。アドバイスや多方面からの情報を得ながらサービス向上を図っている。	併設の施設と合同で2か月に1回開催している。会議では事業内容や取り組みについて報告し、出席者から安全対策など率直な意見をもらい運営に活かしている。メンバー全員が出席できるよう開催日を調整している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市の職員や地域包括の職員から毎回参加してもらい、意見やアドバイスを頂いている。	市の福祉課や包括支援センターの担当者より、運営推進会議の中で意見やアドバイスを頂くとともに、日常的に細やかな報告や相談を心掛けて協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。法人内の研修会に参加し学習している。玄関やベランダは、自由に出入りが出来るようになっている。	法人の研修会で身体拘束について学んでいる。職員は鍵をかけることの弊害を理解し、入居者の自由な暮らしを支援している。現在、マニュアルの作成に向けて努力中である。	研修内容を全職員に周知できるよう工夫が望まれる。また、マニュアル作成のプロセスを通して、身体拘束やその背景、人権について学び、質の高いケアに繋がることを期待したい。
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	法人内の虐待防止の研修会に参加を促している。言葉使いには十分注意し、虐待防止に努めている。	法人の研修会への参加を促し、参加できなかった職員には資料を回覧して共通認識を図っている。管理者は、普段のケアの中で虐待につながるようなことがないよう職員の言葉や態度等に注意を払っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内で成年後見制度・権利擁護の研修会を行い、学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族やご本人から施設見学に来て頂いたり、契約前には自宅訪問をさせて頂いている。契約書や重要事項説明書の説明の際は、疑問に思った事や心配な事等はいつでも相談して頂くように説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会に来られたり電話連絡の際など、要望を伺ったりしている。日頃から居室担当が中心となり、細かな連絡を取り合っている。	本人の意見は、日常の関わりの中から小さなことでも受け止め、サービスに反映させている。家族とは電話や面会時に話を重ね、「申し送り帳」を活用するなど細かい要望も職員間で共有し対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の事業会議や全員参加しているユニット会議で、意見を聞くようにしている。	毎月1回事業会議とユニット会議を開催し、ユニット会議には全員が参加して意見交換をしている。管理者は日常的に職員へ「このことについてどう思う？」などと積極的に問題提起し、意見を業務改善に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の定める就業規則や給与規程等に基づいて運営している。人事考課制度を利用し、自己目標に向かい遣り甲斐を持てるよう取り組みを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人や施設内で定期的に研修会を行っている。外部の研修会にも職員の力量に応じ随時参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新潟県認知症高齢者グループホーム協議会や、魚沼地域グループホーム連絡会の研修会などに参加している。知り得た情報は職員に伝えている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に各種機関やご家族から情報を貰ってから、ご本人と面談し話を良く聞いている。不安に思う事や要望など、きちんと把握し受け止め、安心して頂けるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の自宅訪問で面談し、困っている事や不安に思う事や要望など、時間を掛けてきちんと伺っている。安心して頂けるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅のケアマネやご家族から情報収集を行い、施設の入所検討委員会でグループホームの入居が適切なのを見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意思を尊重し、調理や洗濯干しや洗濯たたみなど、職員と共にやる機会を多く持つよう努めている。そこでの会話を大事にして、一緒に生活している関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会が多く、その都度日々の様子を報告したり相談をしている。日用品の補充や病院受診など、ご家族にお願いしている。ご家族と外出や外泊も楽しんでいる。	入居時に利用契約書等で家族の役割を説明し、病院受診の付き添いや、墓まいり等の外出、日常の面会等をお願いするなど、共に支えていく関係を築いている。事業所での様子は電話や面会時に丁寧に伝えている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅に居た時のように、係りつけの病院や馴染みの理美容院に行かれている。友人や近所の知人などの面会も多い。墓参りに行かれる方もいる。	家族や本人から情報を得て、希望に応じて行きつけの理美容院やお店での買い物を支援している。友人や近所の方が面会に来られた時は、また来てもらえるよう声をかけ、関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士はすでに馴染みの関係が出来ている。親しい方は其々の居室に遊びに行き、楽しい時間を過ごされている。同じ建物内のデイサービスなどとの関わりも持っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時は十分な情報を提供している。同じ建物内の特養に入居された方には、時々職員や入居者が面会に行き、喜ばれていた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で思いや意向を把握し確認するよう努めている。聞き取りが困難な場合はご家族から聞いたりしている。その後申し送りや会議で周知徹底をする。	職員は本人の話や日常の動き、変化に心を寄せ、思いや意向をくみ取り、互いに伝え合ったり「申し送り帳」等で情報を共有しており、希望実現に向けた支援をしている。意思疎通が困難な時は本人の視点で検討している。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族に昔からの生活の様子を確認したり、在宅時のケアマネからの情報を基に個人票を作成する。事前訪問の際、ご自宅の様子も拝見させて頂く。	在宅時のケアマネージャーから生活、心身の状況を聞くと共に、入居前に必ず自宅を訪問し、本人や家族と面会して日頃の様子や習慣、生活歴、役割、好きなこと、やりたい事などを確認のうえ個人票を作成するなど、把握に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の関わりの中でご本人のやりたい事や出来る事、役割など把握するよう努め、ケース記録に残している。バイタルチェックをし、排便チェックや体重測定も行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向を反映させた介護計画の作成に勤めている。居室担当を含めた職員と話し合い、現状に沿っているか確認をしている。	本人、家族の希望や意向に添って居室担当や関係職員で協議し、現状に即した介護計画を作成している。作成に当たっては小さな変化を家族にきちんと伝えることも心掛けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に、日々の様子や援助内容、気付きなどを個別に記録している。申し送り事項は連絡ノートを活用し情報共有に役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々のニーズに対し、業務内容や時間を変更しながら、臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の商店や理髪店を利用されている方もいる。向いの小学校の運動会の応援に行き競技に参加させて頂いたりした。選挙の投票の際や祭りなど、顔見知りの方々とお喋りも楽しみにされている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に受診されている。施設での様子や症状が伝わりにくい場合は、ノートを使用してかかりつけ医と連絡をとっている。	全員が入居前のかかりつけ医に受診している。受診は家族の付き添いが基本であるが、職員やヘルパーのこともある。必要に応じて連絡ノートを活用し、適切な受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週一回、ユニットに訪問看護師が来られる。ひとりづつの様子や気になる症状を書き出し、看護師の対応や助言を記入して頂いている。受診についても同様に専門的なアドバイスを頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、必要な情報を提供している。入院中はご家族から様子を聞いたり、病院への問い合わせで情報を共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に重篤化した際に、グループホームとして出来る事と出来ない事を説明させて頂いている。緊急時は職員間でマニュアルに沿った対応を行うよう統一を図っている。	入居前に重度化や終末期に向けた事業所の方針を説明している。重篤化した場合や事業所の対応が困難になった場合は、早い段階から本人や家族と相談し合い、他の施設とも連携しながらチームで支援している。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの整備や研修会に参加し学ぶ機会を持っている。	マニュアル検討委員会を立ち上げ、急変や事故発生時のマニュアルが作成されている。職員はマニュアルに目を通し、いつでも対応できるよう努めている。応急手当や初期対応の実技は講師都合で今後実施していく予定である。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を通じ、災害時の避難方法等を身につけている。地域との協力体制については、今後地元町内会との話し合いを予定している。	防災委員会が中心となり訓練計画を立て実施している。9月に施設全体で夜間を想定した避難訓練を行ったが、不安や課題が残ったところである。運営推進会議を通じて、11月に地元町内会との防災協力について協議予定である。	災害は予測しがたく、職員だけでは対応が困難なことを踏まえ、地元町内会と協力体制を整え、的確に避難訓練が実施される事と同時に防災対策のマニュアル作成を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの意思や人格を尊重し、プライバシーに配慮した声掛けや対応を心がけている。ご自分の居室入ロドアを施錠される方もおられ、居室はその方の家と認識し、一層注意をしている。	職員は優しい表情や声のトーンを心掛けている。馴れ合いになると友達感覚になり易いことに気を付けている。トイレ誘導も羞恥心を感じさせないようにさりげなく行なわれている。夜間の施錠においても施錠する方もおられるので、安否確認はスペアキーで静かに対応するなど細心の配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員との信頼関係が成り立たないと困難な為、日常のコミュニケーションを十分行う事が大切と考えられる。自分から上手く表現出来ない方には、表情や行動などで感じ取れる支援が出来るよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務上の都合を優先するのではなく、その方のペースを大切にしている。食事やレク活動の声掛けは行うが、参加などは自由で強制する事はない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は馴染みの理美容室で好みの髪形にされたり、シャンプーや化粧品など好みの物を使われている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や配膳などお手伝いして頂いている。日頃の会話などで食べたい物を聞き出しメニューに入れたりする。個別に外食にも出かけたりする。	食事の支度は入居者に手伝ってもらいながら全職員が交替で行われている。食欲のない人には強要はせず、話を聞いたり見守りを行っている。嗜好や外食の希望にも添っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事摂取量をケースに記録している。お茶・コーヒー・ココア・紅茶・ポカリなど色々用意している。ご本人の要望で量・主食の変更・嫌いな物の代替えに応じている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	在宅の頃からの習慣で、毎食後に口腔ケアをされない方もいる。しかし夕食後には声掛けや介助で行っていただくよう支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	プライバシーに配慮した声掛けや誘導を行い、失敗を減らして気持ちよくトイレでの排泄が出来るよう援助している。	トイレは各居室に在り、寝る前と起きた後は必要に応じてトイレ誘導を支援している。個人の排泄パターンや能力に応じ、夜間はポータブルトイレを使用したり日中はさり気ない声掛け誘導等で排泄の自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	軽体操や散歩も実施している。水分補給にも努めている。乳製品や野菜・果物などの食品提供も心がけている。下剤も処方されている方がいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決めず希望される方のタイミングに合わせて臨機応変に入浴して頂いている。	午後を入浴時間としている。週の入浴回数や時間帯は本人の希望に添うよう努めている。仲間と一緒に入浴や同性介助の要望にも応えたり、時には柚子湯や菖蒲湯など季節感のある楽しい入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを尊重し、自由に昼寝や休息を取られている。ご自分の枕や掛物を持って来ている方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の薬カードはファイルに綴じてあり、いつでも確認できるようにしてある。服薬支援はマニュアルに沿って行っている。薬について不明な事は、直接薬局に問い合わせしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理・配膳・洗濯干し・たたみ物・掃除など、楽しみや得意な事をお手伝いをして頂いている。気分転換に個別に外出したり、買い物や外食にも出かけたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人の買い物や散髪・選挙などの希望があった際はその都度出かけている。季節ごとに花見や祭りなどのイベントにも出かけている。日々の生活の中で、行って見たい場所など伺いながら、希望に沿った外出支援を行っている。	季節の変化を楽しむ外出や地域行事の見学、参加など入居者と話し合いながら行事計画を立て、家族や地域の支援を得ながら実施している。本人の希望に応じて、馴染みの場所や人と会ったり、外食の支援も行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の管理の下、ご自分で自由に使用されている方もいる。買い物や受診時などご自分で支払いもされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があった際は電話や手紙を書く支援をさせて頂いている。ご自分の携帯電話を使用される方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除は毎日行き清潔にしている。リビングの窓からは、広い田畑が見渡せて季節を感じる事が出来る。玄関や廊下などにも花を飾るなど、居心地の良い空間作りに努めている。	共有の空間には季節の花や入居者の作品が飾られている。掃除が行き届き、スリッパ、ズックの裏も拭き取り転倒に注意している。リビングにはいつも職員が居て居心地の良い空間作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは気の合う入居者同士が思い思いの場所で過ごされている。窓際のソファで過ごされたり、冬はコタツを作り足を伸ばし休んで頂いたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に説明し、ご家族の協力を頂き、自宅で使用していた物を持って来て頂いている。	ベッド以外は本人の生活スタイルに合わせ、使用していたものをそのまま持ち込んでもらっている。家具は地震対策の為に安全装置を付け、配置を変えて安全で快適な生活が過ごせるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表示をシンプルにして、入居者がひとりでも分かりやすいようにしたり、廊下などには障害物を置かないようにして、安全に移動できるようにしている。		